

2015年版

# 市長コラム集

市広報誌「広報こおりやま」に毎月掲載



## 市長コラム (2015年1月号に掲載)

### 市長コラム 子どもの情景



あけましておめでとうございます。今年もご高覧のほどよろしくお願ひ申し上げます。昨年同様、今年も次々と新しい課題に皆さまと共に、市職員と一緒に取り組んでまいります。

一つの課題の解決が次の課題を生む、との教えは、市役所の仕事も同様です。職員の皆さん、ご苦労さま、ありがとうと心の中で唱える日々です。

でも考えてみれば、子どもたちは、私たち大人以上に日々新しい課題に取り組んでいます。大人の世界も一人で複数の仕事を担当していますが、子どもは大人より多い課題に並行して取り組んでいます。小学6年生を例にとれば8科目、中学3年生は9科目、しかも毎日新しい知識や問題と格闘しています。昨日とは違う知識に直面する日々なんですね。その新しさは我々大人の経験する新しさとは比

較にならない新しさです。英語で言えば毎日新しい単語が出てきて辞書と首っ引き。

大人の仕事には、毎日辞書を引かないといけないほど新しいコトバに出会うことはありません。お子さんの教科書をそっとひも解いて見て下さい。きっと私たちの子ども時代の教科書とは比べものにならないほどの量と高度さに「ドキッ!」とされることでしょう。

受験と新学期を前に、不安と発奮の間にある子どもたちへ激励のコトバを贈りましょう。



▲子どもたちが使用する小・中学校の教科書

## 市長コラム (2015年2月号に掲載)

### 市長コラム 木戸前雪掃



1月は新年会と成人式の月でありました。成人?式。法的には20歳で成年とするとありますから、成年式と言うべきでしょうか?人は出生時に権利の主体となり、胎児も損害賠償の請求権を有する、すなわち権利の主体となりうる、すなわち「人」としての地位にあるのですから。

幼稚?園。立派な権利主体の子どもを幼稚な人と言うのも失礼かもしれません。児童の権利に関する条約では、18歳未満の人を児童と言ひ、単に被保護者と見るのではなく、権利の主体たる立派な「人」として尊重する事を締結国に義務付けているのですから。では幼稚園児は何と称すべきでしょうか?小児科という言葉があるから小児園というのも一案でしょうか?

さて2月。忘れもしない昨年2月15日は豪雪の日でした。ボランティアのご活躍もいただき、全力を尽くしましたが、混乱いたしました。雪の

吹き溜まりに放置された車もありました。全国的な現象でもあったことから、災害対策基本法も改正され、行政の責任において放置車両を撤去することも可能になりました。無理な運転はお避けください。

豪雪予報が出され、学校が休業になりそうな時にはテレワーキングや年休をお取りいただき、ご子弟との対話の機会にさせていただくのも一つの方法かと思ひます。走行車両減少により、除雪の円滑化も可能になります。さらに万全を期するためには市民の皆さんのご協力が不可欠です。

「市の当局は道路の中央三分の一だけの世話をし、両側の地主たちが残り三分の一ずつを注意する」(※)という明治の先人の例にならって。我々の木戸前清掃という良き習慣を雪の日には木戸前雪掃の日として。

## 市長コラム (2015年3月号に掲載)

### 市長コラム その場で



まもなく3月11日。市民の皆さまお一人おひとり、さまざまな4年間を過ごされた事と思います。それぞれのお立場で、あの日以前と同じ、否、それ以上の生活、学業、仕事の環境を整える事を目指してこられたと思います。市役所では、お一人おひとりの「今」をよく承知して、でき得る限りベストのサービスを速やかに提供できるよう、お寄せ頂いたご意見、ご叱正がその日の内に私の元に届く仕組みを作りました。

天声人語という言葉がありますが、まさに皆さまからの言葉は天声(市)民語として承らなければなりません。ご指摘を受ける前に手を打っておきたかった事も少なくありません。

しかし、一番反省しなければならないのは、窓口対応、電話対応についてご注意をいただく事です。お互いに市民の一員として共感をもった対応をすべきところ、誠に申し訳なく残念です。反省第一なのでお願いするのでも何

ですが、同時に、同じ事態を繰り返さぬ為にも、できればその場で一言ご指摘を頂ければとも思っております。(私に対しても同様にお願いします)

「ほめるのは後で(もよいが)、叱る時はその場で、すぐに」との教えもありますので。

もちろん、職員に対しても、お互いに対応カイゼンし合うよう注意喚起してまいります。

職員も多くの課題に果敢に挑戦しています。

私も「時代」や「麦の唄」(ともに中島みゆきさんが唄う)に共鳴しつつ毎日出勤しています。市立美術館のマッサンボトルに極寒の地の闘志を思いつつ…

〈写真〉市立美術館収蔵品  
佐藤潤四郎デザイン  
「スーパーニッカ」手吹きボトル  
1962年(昭和37年) 高さ25.0cm



## 市長コラム (2015年4月号に掲載)

### 市長コラム 予算心得帖

平成27年度予算に基づいて新年度の行政がスタートします。新予算の基本的な考え方、詳細は本号予算のページ(4・5ページ)をご覧くださいこととし、ここではその前提となる予算設計思想について一言申し上げます。

まず生産年齢人口の減少を前提としていることです。行政の予算も企業の予算も好むと好まざるとにかかわらず、共通に前提にしなければならないことです。

また、行政分野の従事者が増えて、市民の皆さまがお勤めの企業の求人を困難にしないようにしなければなりません。納税してくださる方々が減るのですから、税外収入を増やさなければなりません。



さらに、支出を伴う施策も省力型でなければなりません。あらゆる分野でICTや市民の皆さまのお力をお借りしなければなりません。(木戸前清掃、木戸前除雪もそのためのお願いです。)窓口業務や道路維持についてもICTをフル活用して、所要時間を短縮することにより、結果

として人手を減らすことが可能です。

また、手続きを簡素化するため、規制緩和もしなければなりません。市の遊休資産を活用いただき稼働資産とするようにしなければなりません。(私有資産になれば固定資産税を納めていただけるようになります。)

皆さまの健康寿命を延ばしていただけるよう、子どものうちからの健康学習と実践を応援します。高齢者の方々にも健康増進を図っていただき、減少する現役世代の負担を少しでも軽くできるような工夫も必要です。また、自助努力によって減らすことができるコストも削減しなければなりません。これらをキャッチフレーズ的に申し上げれば、一利を興すは一害を除くに如かず(セーフコミュニティ)、負動産から富動産へ(市遊休資産の減少・フル稼働)、「マイナス」×「マイナス」=「プラス」(健康増進で風邪知らず)、持たざる経営(買う・持つより借りる)、財務の見える化(複式簿記で分かりやすく)。といったところでしょうか。詳しくは予算出前講座でお知らせします。

※新年度予算の内容は、市ウェブサイトでもご覧いただけます。

## 市長コラム (2015年5月号に掲載)

### 市長コラム オレンジリング

3月は卒業と退職の月、4月は入学(社・庁・所)の月。涙と別れのシーンから笑顔と出会いのシーンへ、さっと変わり、回り舞台を見るような月変わりでありました。

卒業式は小学校でも大学でも、女子の和装と校旗入場が印象的でした。苦節10年という表現がありますが、今はまだ「苦節の4年」と言うべき日々。よく課業をやり遂げられました、と拍手を送りました。

退職の式は、「散る桜 残る桜も散る桜」とは思いながらも、やはり3・11の惨事を想起しつつ、ご苦労をねぎらう場でありました。

人生80年、否、90年の時代ですから、ねぎらいの思いよりも次の20年、30年への挑戦を祈る場でもありました。これからは、若い世代が減る、増えず、高齢者が増える時代、退職後も新現役としてご活躍を願わずにはいられません。

健康を保ち、「自分良し、同輩良し、後輩良し」の三方良しを目指さないと大変な事になります。特に認知症時代にソフトランディングするためには、世代を



問わず認知症サポーターとしての知識・ふるまいを習得しておく事が望ましいものです。

市役所ではまず課長以上(私も含め)が、認知症サポーター講習を受けました。聴講して、これは世代を問わず身に付けておくべき、人と人がお互いの人権・人格を尊重して相対するための必須のマナーと感じました。無表情の方が笑顔になり、久しく口を開くことがなかった方が語り始める、素晴らしい喜びの瞬間を得る事ができるのです。

もう一步進んで「ユマニチュード」という技術・芸術によって、車椅子から人を立ち上がらせる事も奇跡ではなく、可能になるのです。心を澄ませて、サポーターとユマニチュードのアートを習得し、三方良しのまぢを目指したい、と深く思う年度の変わり目でした。

※ユマニチュード…認知症患者に対するケアの手法の一つ。患者を対等な人間として優しく接する必要性が説かれている。



認知症サポーター講習受講者には、オレンジリングが配られます。



講習を受講した事業所には、ステッカーをお配りしています。

## 市長コラム (2015年6月号に掲載)

### 市長コラム スマホで協働

昨年の本号には、郡山駅西口車寄せについて書きました。心なしか、福島ナンバー、郡山ナンバーの変則駐車は見かけなくなりました。

近々改良工事(関連9ページ)を始めますが、車両通行カイゼンの最後の決め手は運転マナー。これまた宜しく願います。

自分よし、他車よし、流れ良しの三方良しの郡山ロードになりますように。

それでも「駅前を過ぎると、そこは渋滞だった」ではサマになりません。全ての道はローマに通じるように、県内の道は郡山に通ず、ですから郡山の渋滞は県内全体の車両通行に影響します。

急がば回れで、ドライバーや歩行者に交通情報をツイッターなどで即報いただければ、迂回路選択も容易になりましょう。

他市の例(当市もスタンバイ)です



が、雪害時に積雪箇所を市にツイートをお願いし、除雪をスムーズにすることができた事例もあります。GPSを利用しての定点観測に加え、正確な情報も頂ければ相当の効果が発揮されるでしょう。

長期かつ相当量の情報を頂ければ、渋滞スポット毎に特徴分析が可能になり、運転者はもとより、道路整備計画にも役立つ情報になります。「積小為大」(二宮尊徳)別名ビッグデータの御利益<sup>あすか</sup>に与ることができます。

月別、曜日別、天候別、渋滞箇所相互関係なども分析できれば、天気予報ならぬ渋滞予報も可能になりましょう。

実はコレって、渋滞情報に限りません。さまざまな課題への対応を高い精度で検討でき、より豊かな社会の実現に結びつけることが可能です。既に気象情報会社は、スマホやケータイをお持ちの登録者からの情報で桜前線予測もしています。インフルエンザ前線も認知可能になります。国勢調査でもインターネット回答を導入の由。

スマホ、ケータイで市民協働も大変身！しましょう。

## 市長コラム (2015年7月号に掲載)

### 市長コラム

#### 好むと好まざるとにかかわらず…

6月の雨を気にしながら、7月号の筆を執っています。災害対策は気象情報の入手と、配信のスピード次第。この度、市民の市民による市民のタメの災害情報対策に資するよう、(株)ウェザーニューズと災害情報市民サイトを開設しました。皆さまのケータイ、スマホがその貴重な即戦力の利器です。(関連9ページ)

カエルの声、ナマズの動きも、天気予知情報との説もあり、どうぞモノは試しと送信ください。

カマキリの卵の位置で、その冬の積雪の程が分かる、との説もあります。理科の時間の自然観察結果も、どうぞ送信ください。野鳥の会、歩こう会の皆さまの鋭い観察眼にも、大いに期待しております。

継続すれば、当市の自然条件の変化、推移を示す貴重なビッグデータにもなりましょう。

それにしても当市の水環境は、ギネスものではないでしょうか。

河川数164本・総延長609km、池沼629か所、樋管・樋門123か所。加えて安積疏水主要幹線水路109本・総延長239km。

今、(株)ウェザーニューズに(少なくとも)中核市の同項目の比較表をお願いしています。

これまで以上に水監理、環境行政を強力に推進してまいります。多勢に無勢。ぜひ市民の皆さまにも、ご自宅、所有ビルに雨水貯留槽を設置し、安積開拓の教え「一尺を開けば一尺の仕合わせあり、一寸を壟すれば一寸の幸せあり」を今に生かしましょう。そして内外に「水(監理)の都・郡山」たることを示しましょう。

なぜなら今や郡山は、再生可能エネルギーの世界的研究拠点都市になり、世界市民ならぬ世界都市に、好むと好まざるとにかかわらず、なってしまったのです。世界都市に相応しい安全環境を整えなければなりません。「上善水の如し」ではありませんが、水自体、再生可能エネルギー源でもあります。

浸水のない親水都市を目指しましょう。



## 市長コラム (2015年8月号に掲載)

### 市長コラム

#### 地上の星

夏休みも間もなく半ば。未だ7月、もう8月の夏休みです。そのうちとと思っているうちに宿題を片付ける日はどんどん少なくなっていくんですね、夏休みは。

今でも、まとめ書きした日記、明日から2学期がという前日に作った押花等々、休みどころではなかった夏休みの記憶が蘇ってきます。父も母もハラハラしながら見ていた事でしょう。皆様はいかがでしたか？イヤナコトヲオモイダサセルネ、でしょうか。



でもやはり、「八月は夢花火」で少年時代のホロ苦い思い出月です。帝王・井上陽水(好きです)の歌は少年時代を懐かしいものにしてくれます。茫々たる光景の浪江町請戸(父のふるさと)の浜で過ごした夏休みの日々も、遠い日の花火のように明滅します。あの砂浜は、

今「砂の中の銀河」、「地上の星」を宿した砂であった、と女王・中島みゆきの歌は気付かせてくれます。

でも、地上の星は、砂の中だけではなく、郡山にも数多おられます。久しぶりに通学路安全点検に参加しました。関係校の校長先生、教頭先生はもとより、所管署の交通安全担当官、国・県・市道の道路管理の担当職員、そして校区の交通安全運動のボランティアの方々。

校長先生、教頭先生は校区内の事情を大変よくご存じで、的確に要カイゼン点を指摘くださいました。登校途中の子どもたちは、高学年を先頭に整然と一列で歩行。ボランティアの方々からは、校舎近辺はゾーン30に、との玄人はだしの提言もいただきました。

担当職員は流石プロ！の知識、経験を活かしてカイゼン点を認識し指摘。その朝は、かくして子どもたちの安全な登校も「地上の星」の方々によって守られていると実感と感謝の朝でした。

※ゾーン30…小学校の通学路や住宅街などに時速30km以下の速度抑制を行い、歩行者の安全を確保する区域(ゾーン)のこと。現在、市内4か所に設定されている。



▲行徳小学校通学路でカイゼン

## 市長コラム (2015年9月号に掲載)

市長コラム

### 合掌の月

8月はさまざまな行事の月。そして鎮魂の月。8月6日、9日、15日、お盆と慰霊と鎮魂の日が続く月。行事は暑さ、熱さに挑戦するかのように、夏祭り、甲子園ほか耐寒訓練ならぬ耐暑訓練のようなスポーツが続く。

当市のうねめまつりも熱い車道の上を草履で歩く。今年は、大相撲郡山場所の開催もあり力士も行列に参加くださった。サーカスのスター、ピエロさんも精一杯の演技で



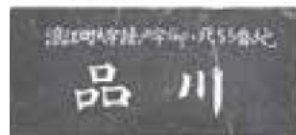
興を添えてくださいました。青少年も思い思いのスタイルで参加。伝統の踊りを若者風にアレンジして見事に演じきってくださいました。当市を本拠地にしてくれた、バスケットボールや野球のチームも踊りの列に。震災以来、フレンチを提供してくれたシェフの方々は今年も参加。

純和風のうねめ踊り流しも、今年是多芸多才の方々の参加を得、かつ国際色豊かな彩を添えられて、うねめの春姫さん、最愛の夫・小糠次郎さんも葛城王も、新しい趣向に驚かれたことでしょう。

正倉院時代の奈良の都も、こんな風に国際色豊かでかつさまざまな芸が展開されたのでは、といにしえに思いを寄せました。鎮魂の月になぜ、とも思えるが、この行事は来る秋の実りを願い、また霊に対する精一杯の奉納の式でもありましょう。

私事にわたり恐縮ですが、少年時代の夏行事は父方の郷里、浪江町請戸での夏季休暇。地引網引き、田の用水でのどじょう取り等々遊び三昧。今はただ往時をしのぶのみですが、そのしのぶよすがとなる表札が何と跡形もない敷地に残っていました。請戸ナウを見に行ったら、同郷の縁者が発見して届けてくださいました。

同様に跡形もなくなった墓石に見たてて合掌しました。一日も早い浪江町請戸のよみがえりを願いながら。



▲発見された表札

## 市長コラム (2015年10月号に掲載)

市長コラム

(マイナス)×(マイナス)=(プラス)

9月は、5月に次いで休日の多い月。気候も良く、猛暑の8月の疲れを癒されたことと存じます。休日を数えたついでに1年間の休日を数えてみました。

週休を2日としますと、休日は125日、労働日は240日となり、年次有給休暇まで加えると休日は145日、労働日は220日となります。働く日を月で換算すれば8か月。昔「あ



との半年寝て暮らす」との学生歌には及びませんが、4か月分は休日という計算になります。

これを小・中学生の登校日について見ますと、登校日202日(※)、休業日163日となります。

長寿化によって1人当たりの人生の総時間は増えますが、1年間の8,760時間は不変です。

労働力人口は減少しています

から、一組織においても一国も、労働日数の減少を人手でカバーすることは困難です。

それどころか、人手をかけないで、かつ、一つの仕事にかける時間が少なくとも済むようにすることが望まれています。

まず、移動時間の短縮が望まれます。市の入札も遅ればせながら、電子入札にしたのもそのためです。文章も短いほど良しとする文化にならないといけません。まず結論、そして理由、説明。「?」「!」が世界一短い手紙の往来文として有名です。

でも「起きな」「食べな」「寝な」(最も短い親子対話例)は、いかなるものでしょう。「ジックリ話す」時間を要する対話のためにも他の対話は簡潔にしたいものです。

消防団員さんも不足気味。消火時間を減らすためには、火災ゼロに尽きます。

介護の人材不足も深刻。適切な食事と運動により、健康寿命を延ばすことが必要です。

以上を一言で申せば、(マイナス)×(マイナス)=(プラス)。長い文章になってしまいました。m( )m

※中学3年生の登校日は195日

# 市長コラム (2015年11月号に掲載)

## 市長コラム

### 郡山の秋

秋は、憲法第21条(集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由)の季節。スポーツの秋、芸術の秋と言いますが、スポーツも全身でする表現の1つと言えましょう。料理もスポーツに近いですね。

当市には、ひとりで表現する方の人数はさておき、表現集団は数多あります。小・中学校の音楽、スポーツ・部活団体に加えて、市文化団体連絡協議会所属の団体だけでも142団体、市体育協会およびスポーツ・レクリエーション協会加盟競技団体は合わせて61団体です。一方で、市が設置するスポーツ施設は屋内、屋外合わせて40施設(※1)、

文化施設(※2)は2施設です。

年間の行事は一定期間に集中しがちで、そのピークに合わせて施設を準備するのは至難のワザ。せつかく、道路も車も整備・普及していますので、行事の広域化も集中対策の1つとなります。

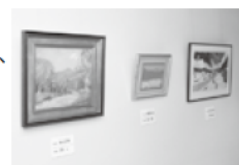


タイムシェアリングも知恵の1つ。会場申し込みを容易にするためにネット申し込みの途も用意しました。(利用は低調ですが)

市役所庁舎内の通路や会議室の壁面も、市民の絵画作品展示スペースとして(※3)。ノーベル賞を受賞した大村智先生は「絵画のある病院」を創設されていますので、マンザラ捨てた策でもありません。イワク「絵画のある市役所」。オフィスビル、公共スペースをお持ちの家主様にもお付き合ひ戴ければ、郡山は「絵画のある都市」になります。

スポーツにおいても、球技にはスペースが必要ですが、ラジオ体操、「セラバンド」というトレーニングバンドを使った体操は畳2枚のスペースで十分です。音楽も「どこでもホール」でミニコンサートができ、公園も野外ホールとして利用をして戴ければ、文字通り「表現の自由都市郡山」になります。財政の不自由は皆さんの知恵の自由でカバー戴ければ、うれしい文化の日になります。

※1 郡山市体育施設条例による  
※2 郡山市文化施設条例による  
※3 市役所内展示については総務法務課庁舎車両係 ☎924-2055までお問い合わせ下さい



市庁舎内に約20点の絵画を展示

# 市長コラム (2015年12月号に掲載)

## 市長コラム

### 五感行政

1年を回顧する月になりました。皆さまにとって、どんな1年だったでしょうか?この1年、多くの都市を訪問する機会を頂きました。

定例の会議(市長会など)以外に特定テーマによる会議が随分増えました。順不同ですが、水害サミット、自治体スマホ連絡協議会、資産運営・公民連携首長会議(東京)、東日本連携・創生フォーラム(さいたま市)、ICT教育全国首長サミット(つくば市)、自治体間連携フォーラム(世田谷区)などでした。姉妹都市締結10周年記念行事で、鳥取市訪問もありました。

いずれも、テーマに深い関心を持ち、知恵の交換を必要と考える都市の首長さんが主唱する会議です。まち・ひと・しごと創生基本方針が、国から示され、この種の会議はますます増えることと感じております。

国・県・都市という縦関係行政から、



都市・都市の横関係行政でさまざまな課題解決に臨もうとする気迫が、各首長さんから伝わってきます。底意はもちろん、我田引水ならぬ我市引人(金)です。パワーポイントを使っての各市町村の紹介を通じて学習しました。

でも、肝心要のその施策を進めている市役所そのもの、あるいは市の姿全体に接する機会は、日帰りという事もあり、全くありませんでした。会場は市役所外のホテルなど会議施設(設営の関係上、止むなしですが)ですし、また市役所総出でホストしておられますので、市役所訪問もメイワクなことになってしまいますから。折角の街見学も駅と会場間の車窓風景。幸い、鳥取市訪問では市のご好意により市内要所を見学させていただきました。

サービスも商品も結局は実際に使った実感でナンボのものですから、町の魅力も訪れるひとの五感(視、聴、味、嗅、触)で、いいね!を感じていただくのがキモです。

市の政策も、文字面からだけでなく、市民の皆さまや来訪者の五感指向で展開が必要!が今年のメの言葉。五感でよいお年をお迎えください。



▲鳥取市訪問の様子